

平成 24 年度事業報告

財団法人小堀遠州顕彰会

(1) 報告事項(1)平成 24 年度事業報告

(1) 茶会

(イ) 遠州忌茶会

平成 24 年 5 月 12 日(土曜日) 京都・大徳寺塔頭孤篷庵(小堀遠州公菩提寺・重要文化財保護建造物)を開放して、開催された。午前 9 時、同庵本堂における遠州茶道宗家 13 世小堀宗実家元の供茶に始まり、法要を営み且つ、山雲床席において京都世話人・赤坂政次理事が濃茶席を、また、忘釜席においては東京世話人・中島高彦 評議員が薄茶席を、其心庵では小堀宗実家元が薄茶席をそれぞれ担当し、遠州公ゆかりの道具が展観され盛況であった。

(ロ) 御自影天神供養茶会(天神茶会)

平成 25 年 2 月 25 日(土) 遠州茶道宗家(東京都新宿区若宮町)において遠州公の信仰深かった御自影天神を供養する茶会を開催し、濃茶席を善田喜征氏、薄茶席を小堀宗実家元が釜を掛け、遠州公ゆかりの道具を展観した。

(ハ) 小堀遠州の世界 2012

平成 24 年 11 月 11 日(日)に開催された岡山県高梁市の高梁再発見事業「小堀遠州の世界 2012」を後援し小堀遠州の庭園を有する頼久寺にて、茶会を行い、その遺徳を広く紹介した。

(2) 展覧会

平成 25 年 3 月 10 日(日) 東京美術倶楽部重文展示室において、小堀遠州ゆかりの茶道具を展観した。

(3) 講演会

(イ) 平成 24 年 10 月 8 日(月・祝) 江戸東京博物館 学習室において、第 7 回秋季講演会を開催した。講師は華道洗心雲林派 米村孝月氏。テーマは「小堀遠州の抛入花 ～橋柱の花器に水仙の花を抛げ入れて～」で、なかなか目にするのできない貴重な資料を見ながらの解説に好評のうちに終了した。講演内容を米村先生にまとめて頂き、「天霽」34 号に掲載した。

(ロ) 平成 25 年 3 月 24 日(日)にニッショーホールにおいて、第 26 回公開討論会を開催した。講師は、池内克哉監事・熊倉功夫理事・林屋晴三常務理事・小堀正晴理事長。テーマは「遠州と宗旦の茶の湯」。資料を見ながらの解りやすく、楽しい討論に来場者は大変熱心に聞き入っていた様子が見られた。

(4) 刊行事業

これまでに発行した、『小堀遠州の書状』（平成14年5月1日発刊）・『続小堀遠州の書状』（平成18年1月14日発刊）に続き、第3集を発行する為、資料を収集し、編集を進めている。

(5) 会報の発行

会報『天霽（てんせい）』34号を発行し、会員に配布した。

(6) 成趣庵の公開

成趣庵の茶室・露地を公開して茶会を開催し、小堀遠州より繋がる建築・造園の美意識を顕彰し、紹介した。

(7) 文化交流

(イ) 日本・シンガポール親善文化交流シンガポール国立大学日本研究学科において、毎月茶道教室を開催し、遠州の茶道を紹介した。

(ロ) 日本・オランダ親善文化交流

本年も引き続き日蘭文化交流を継続した。

(8) 茶道指導

小堀正晴理事により広く一般を対象として、遠州の茶道の指導を行った。

以上が平成24年度における当財団の事業報告の大要である。